

まちづくり協働座談会を開催しました

1. 座談会を開催した経緯

本市では現在、新たな生涯学習施設の整備に向けた検討を進めています。新たな施設は、図書館や公民館の機能に加え、地域の未来を担う、子ども・子育て世代を中心に、多世代が集い交流する「多世代交流拠点」としての役割をコンセプトとしています。

現在、今後の具体的な設計の指針となる胎内市生涯学習施設整備基本計画（案）について、広く市民の皆さまからご意見を伺うパブリックコメント（意見募集）を実施しており、6月17日（火）まで受け付けていますが、このほかに対話を通じてさらに幅広くご意見を伺う一環として、5月27日に胎内市生涯学習施設整備基本構想の策定当時にご協力いただきました胎内市生涯学習施設整備検討委員会の委員の方々や、コンセプトの柱の一つである「子育て世代」の保護者の皆さまと、市長が市民の方々と車座で語り合う「まちづくり協働座談会」を開催しました。

座談会では、未就学児や小学生を持つ保護者の率直な声、新しい施設への期待、更に「徒歩で行けないと利用しにくい」といった日常の利便性に関する意見等、さまざまな視点から意見が交わされました。



2. 座談会で出された声（抜粋紹介）

- 「生涯学習施設には、子どもが外で遊べるスペースや、屋内でも天候に左右されず過ごせるようになっていたらよいと思う」
- 「子どもたちが安心して利用できる環境を整えてほしい」
- 「車で移動する人が多いので、嘉平山のように広い駐車場が整備できる場所が望ましい」
- 「子育ての時期が過ぎた後でも、また別の立場で利用できるような施設にしてほしい」
- 「将来の多様な利用形態を見据え、物理的なスペースの余裕や、アクセスの良さを備えるべき」
- 「施設のコンセプトや胎内市らしさを大切にしてほしい」
- 「もう少し施設のコンセプトを絞り込むべきではないか」
- 「候補地は国道より市街地側にしてほしい」
- 「施設を巡回するバスの運行があれば便利」
- 「公民館と図書館は、各地域の身近なところにあってほしい」



3. 胎内市の考え



新たな生涯学習施設は、老朽化した図書館や中央公民館の単なる建て替えではなく、子どもから高齢者まで、幅広い世代が利用できる多世代交流の拠点として整備することとしています。

そのため、市内全域の市民を対象とした施設と位置付け、市民にとってより望ましい「最大公約数」となる在り方を基本に、利用しやすさにも配慮していきます。あわせて、屋内外の憩いのスペースや十分な駐車場の確保といった視点も大切にしていきたいと考えています。

5月21日付けの新潟日報の記事において、嘉平山が「建設候補地」と記載されていましたが、あたかも建設地が嘉平山に決まったかのように受け取られた方も多くいらっしゃったようです。

このことについては、5月22日にFacebookの市長随想（市のホームページにリンクがあります）でも触れていますので、その該当部分を以下に抜粋してご紹介します。

市長随想（抜粋）



胎内市長 井畑明彦

5月22日 16:06

『生涯学習施設整備に向けて』

（5月22日 Facebook 投稿）

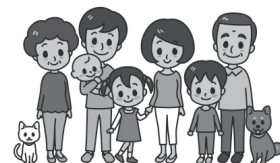
● 施設概要と設置場所について

……まず、施設概要については、利便性やコスト低減の視点から図書館や公民館、交流施設的なものを備えた複合的な施設が望ましいと考えています。いろいろな候補地があり、それぞれに一長一短は有ろうと思いますので、関沢地内は有力な候補地であると捉えていますが、決して確定しているものではありません。また、設置場所については、今後の統合中学校の設置場所を考慮しておかなければならないこと、多くの市民の最大公約数的な利用を考え、屋内外の憩いのスペースや広い駐車場も確保できれば望ましいとの考え方も大切にしていきたいと考えていることをご理解いただきたいと思います。

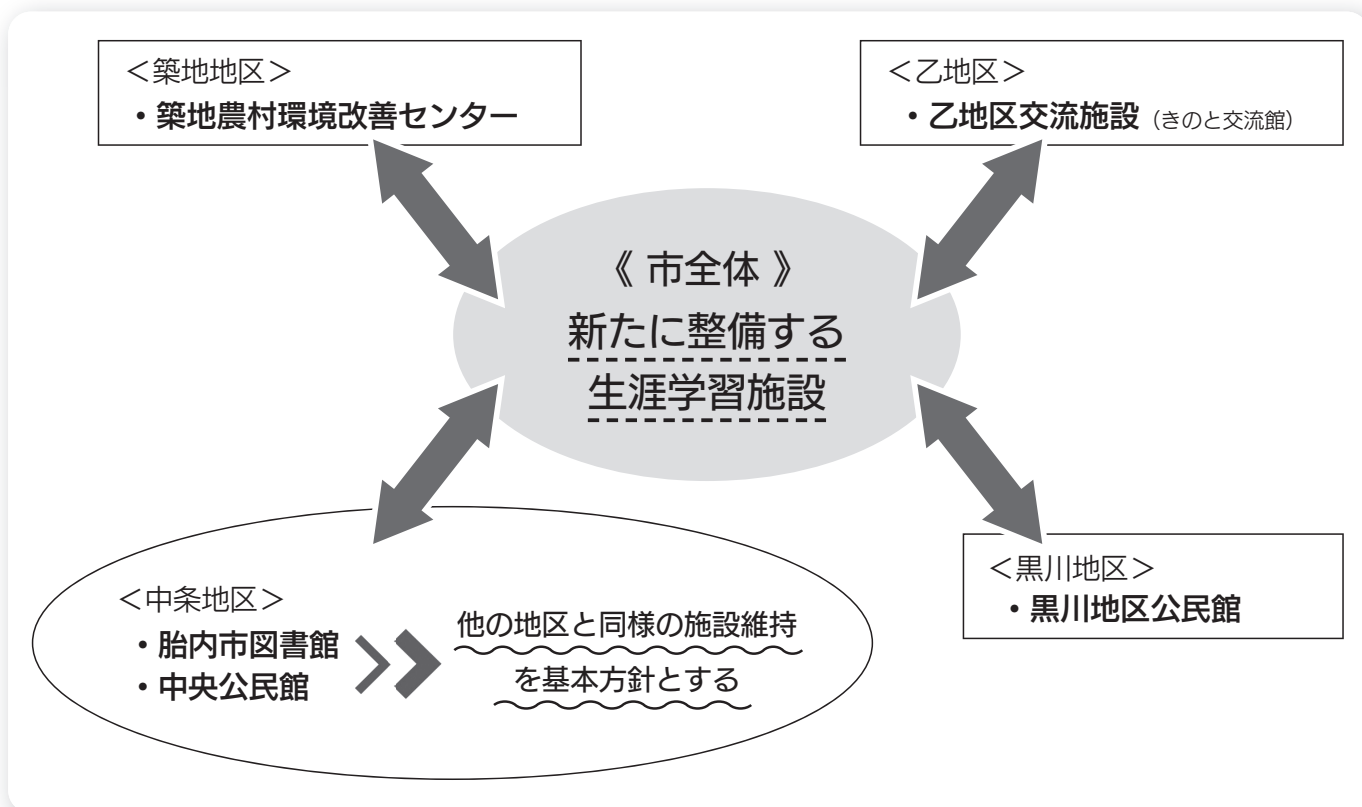
(1) 各地域住民の生活圏に対応した身近な施設は維持する方向です

老朽化が進む図書館と中央公民館は、実質的には中条地区の皆さまの施設としての役割を果たしてきたものと受け止めています。

新たな生涯学習施設は、市民全体の施設として位置付けていますが、中条地区においても、乙、築地、黒川地区の地区公民館等と同様に、図書室を併設した公民館的な機能については、既存施設の活用等、何らかの形で維持していくことを基本方針として考えています。



【地域ごとの施設イメージ】



(2) 胎内市生涯学習施設整備基本計画（案）で関沢地内

（通称：嘉平山）を建設候補地としている理由

これまで十分な説明ができていませんでしたが、駅付近や旧中条体育館跡地など、いくつかの候補地について、それぞれのメリット・デメリットを検討してきました。

たとえば、駅付近については広さも含めて適切な土地の確保が難しく、旧中条体育館跡地については、今後の統合中学校の建設候補地としても検討されていることもあり、現時点では、さまざまなニーズに応え得る候補地の優劣が確定するには至っておりません。

そうした中で、総合的な観点から望ましいと考えられる嘉平山を、あくまで予定地ではなく、有力な候補地としているところです。

今後は、市民の皆さまから寄せられるさまざまなご意見を丁寧に受け止めるとともに、専門的な知見も踏まえながら、多くの市民に喜んでいただけるような望ましい方向づけを行っていきたいと思います。